

購読の申し込みは  
**日本医労連へ**  
購読料 年間1,500円(送料込)  
(組合員の購読料は組合費に含む)  
送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296  
郵便振替 00160-6-84866  
ホームページ http://www.irouren.or.jp/  
電子メール n-ask@irouren.or.jp

# 医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

1855号・1856号合併号  
2025年8月14日  
編集・発行  
日本医療労働組合連合会  
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5  
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871  
発行 毎月2・4木曜日  
(昭和36年9月15日第三種郵便物認可)

## — 産別運動前進・組織強化拡大 — **2025年度 運動方針を確立**

- 〈採決結果〉
- 25年度運動方針案  
…賛成多数で可決
  - 夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプラン案  
…賛成多数で可決
  - 25年度予算案  
…賛成多数で可決
  - 規定改定案  
…賛成多数で可決
  - 25秋闘産別スト権  
…確立  
(賛成166票・反対3票・白紙0票)
  - 共済事業方針案・予算案  
…承認



### 日本医労連第75回定期大会 大幅賃上げ・夜勤規制・大幅増員を 勝ちとる決意を固める

日本医労連は、7月22日～24日までの3日間、滋賀県琵琶湖グランドホテルにおいて「第75回定期大会」を開催しました。2025年度の運動方針と予算、夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプランを採択・確立し、新年度役員を選出しました。大会では、ストライキを背景に大幅賃上げを求めて奮闘した経験や、理不尽な経営者の横暴を許さず争議をたたかう仲間の報告、組織強化拡大の経験など活発な発言が相次ぎ、組織を強く大きくし、産別運動前進への決意を固めました。

第75回定期大会は、原英彦中央副委員長が開会を宣言し、議長に田中希依代議員(全医労)、梅本哲男代議員(岐阜)、池原裕子代議員(鳥取)を選出して、議事が進められました。開会にあたり、中央執行委員会を代表して佐々木悦子中央執行委員長があ

いさつを行いました(要旨 左)。来賓として、石川敏副議長(全労連)、土田昭一中央執行委員長(福保労)、医労連を代表して片山忍専務理事(医生活協)、田村貴昭衆議院議員(日本共産党)から連帯のあいさつをいただきました。議事では、森田進中央副執行委員長より24年度決算報告・会計監査報告ののち、米沢哲書記長から2025年度運動方針案が、続いて松田加寿美書記長より夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプラン案が提案されました。討論では、55本の発言と4



提案する米沢書記長

本の文書発言が出され、米沢書記長の総括答弁(要旨3面)の後、25年度予算案、規定改定の提案がありました。25年度運動方針案・夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプラン案・25年度予算案・規定改定案は、いずれも賛成多数で可決されました。を戦場の血で汚さない!決意をあらたに(内容2面)が満場の拍手で確認され、すべての議事が終了しました。閉会のあいさつは、花澤直樹中央副執行委員長が行い、佐々木中央執行委員長の団結カンパロウで散会しました。

共済事業方針案  
・予算案は提案の  
のち承認され、産  
別統一スト権を賛  
成多数で確立、役  
員選挙は立候補者  
全員が信任されま  
した。  
また特別決議案  
「ふたたび白衣



7月20日投票が行われた参議院選挙では、与党が過半数割れとなりました。しかし、排外主義や外国人への規制強化を訴える政党が議席を伸ばし、今後の政治のあり方が問われています。

#### 佐々木悦子中央執行委員長あいさつ(要旨)

差別や戦争の正当化に抗議、憲法9条を生かした外交による平和が必要です。すべての人々の平和と尊厳を守るために、現場から声を上げる運動が今、必要とされています。

この間みなさんにはストライキを構えた賃上げ闘争に奮闘していただき、医療・介護現場では低賃金と人手不足が深刻で、病床の削減や事業所の倒産も起きています。私たちの運動によっ

て、6月に閣議決定された「骨太方針2025」では、医療・介護・福祉分野での賃上げ、離職防止、人材確保の重要性が盛り込まれましたが、具体的な内容には触れられていません。だからこそ、私たち労働者が団結して、大きく運動を展開し、賃上げ、人材確保を実現する具体策を示さることが求められます。また政府は、一部野党との協議において医療費4兆円削減を合意し、1床あたり410万円もの税金を投じて病床削減を進めています。国民の

**大会に寄せられた連帯のメッセージ**  
日本医労連第75回定期大会に寄せて、全労連をはじめ141の団体・個人から連帯のメッセージが届きました。ありがとうございました。

# 大会宣言

日本医労連は7月22日～24日までの3日間、滋賀県琵琶湖グランドホテルにおいて、第75回定期大会を開催しました。大会には、7全国組合・46都道府県医労連(※)の代議員178人・女性比率約41%、特別代議員3人、来賓・傍聴・役員等あわせて272人が参加しました。

今大会では、55本の発言で活発な討論が行われました。ストライキをかまえて賃上げを勝ち取った経験、春闘を粘り強く継続するために第2次統一行動に結集した取り組み、夜勤規制と大幅増員を実現するための貴重な意見、住民とともに地域医療を守り統合を阻止するたまたかいや、理不尽な経営者の横暴を許さず争議に立ち上がった仲間との報告、新たな単組結成を含めた組織強化拡大の経験、2025年のアウトインサマー in 神奈川に向けた支援の呼び掛けや「つながり、をテーマに準備を進め成功させる決意、そしてあらゆる運動において産別結集の重要性が強調されました。

25春闘でのストライキ決議、賃上げと人員確保を求める団体署名、国会議員要請、自治体キャラバン、SNSでの情報発信などによる積極的な取り組みが、メディアを通じて世論に大きく広がりました。与党内からもケア労働者の賃上げが必要と私たちの運動が世論や政治に変化をもたらしたことは大きな成果です。しかし、医療・介護・福祉労働者の生活を改善する具体的な対策は図られておらず、昨年のペースアップ評価料は十分な賃上げにつながらず、さらに一時金の引き下げて年収が減った医療・介護・福祉労働者が多くいます。これまでにつくり上げてきた、世論と政治の動きを活かして、産別結集を継続し、ケア労働者の大幅賃上げと夜勤規制を実現することが重要になります。今秋からはじまる新たな署名を推進し過剰な現場を放置したままの政府に「私たちの声」を突き付けましょう。

11万床の病床削減や医療費4兆円削減、OTC類似薬の保険外し、介護給付費抑制と負担増など、国民のいのちと健康と生活を脅かす動きが具体化されています。権利としての社会保障を実現するために医労連の役割は、ますます重要になります。

自公政権は、国民生活を後回しにした政治を進めてきました。そのため、7月20日投開票の参議院選挙では、物価高や米不足など深刻になっている国民生活に十分な施策を打てず、大きく議席を減らし過半数を割りました。また、野党共闘を追求した東北、四国、沖縄などははじめとする地域では与党に民意を突き付ける結果がでています。その一方で、憲法改悪、露骨な排外主義を掲げる政党が仲良ししました。日本医労連は「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」ことを合言葉に、平和と民主主義をまもる課題に取り組みできました。今年は戦後80年の節目です。この教訓からも、憲法9条が活きる平和な社会を目指す運動の広がり、日本を喜ばすすべての人に差別と分断を許さない政治の追求が重要です。

今大会時点の組合員数は15万5,650人となっています。低賃金、過剰な労働環境におかれている医療・介護・福祉職場からの脱却には、制度・政策に大きな影響を發揮できる組織建設は欠かせません。圧倒的未組織になっている920万人の医療・介護・福祉労働者に医労連運動への結集を図るためにも、対話を軸に仲間をやし労働組合の目的に向かって原則的に活動することが求められています。18万人医労連を早期達成し、社会的影響力を發揮する強固な医療産別の建設に皆で取り組みましょう。

安全・安心の医療・介護・福祉を提供するためには、社会的役割にふさわしい賃金労働条件が不可欠です。今大会で決定した方針を基礎に、医療・介護・社会保障のいっそうの充実をめざして、全国のなかまと一緒に奮闘することをここに宣言します。

2025年7月24日  
日本医療労働組合連合会第75回定期大会

(※代議員としての欠席組織が1つあったため、正しくは46都道府県医労連でした。紙面でも訂正しております。)



夜勤改善・大幅増員、労働条件・働くルールは、14本の発言がありました。大阪からは、コロナ禍の過酷な状況が忘れ去れようとしている現状に危機感を感じているとして、私たちが声を通いやすくなっていることを宣言し、実行動をしていかなければならないと発言がありました。京都からは、医療・介護キャリアバンを行っている中で、財政

夜勤改善・大幅増員、労働条件・働くルールは、14本の発言がありました。大阪からは、コロナ禍の過酷な状況が忘れ去れようとしている現状に危機感を感じているとして、私たちが声を通いやすくなっていることを宣言し、実行動をしていかなければならないと発言がありました。京都からは、医療・介護キャリアバンを行っている中で、財政

夜勤改善・大幅増員、労働条件・働くルールは、14本の発言がありました。大阪からは、コロナ禍の過酷な状況が忘れ去れようとしている現状に危機感を感じているとして、私たちが声を通いやすくなっていることを宣言し、実行動をしていかなければならないと発言がありました。京都からは、医療・介護キャリアバンを行っている中で、財政

夜勤改善・大幅増員、労働条件・働くルールは、14本の発言がありました。大阪からは、コロナ禍の過酷な状況が忘れ去れようとしている現状に危機感を感じているとして、私たちが声を通いやすくなっていることを宣言し、実行動をしていかなければならないと発言がありました。京都からは、医療・介護キャリアバンを行っている中で、財政

夜勤改善・大幅増員、労働条件・働くルールは、14本の発言がありました。大阪からは、コロナ禍の過酷な状況が忘れ去れようとしている現状に危機感を感じているとして、私たちが声を通いやすくなっていることを宣言し、実行動をしていかなければならないと発言がありました。京都からは、医療・介護キャリアバンを行っている中で、財政

夜勤改善・大幅増員、労働条件・働くルールは、14本の発言がありました。大阪からは、コロナ禍の過酷な状況が忘れ去れようとしている現状に危機感を感じているとして、私たちが声を通いやすくなっていることを宣言し、実行動をしていかなければならないと発言がありました。京都からは、医療・介護キャリアバンを行っている中で、財政

# 日本医労連 第75回定期大会 25年度運動方針

# 討論風発の討論

## 特別決議

「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」決意をあらたに

1945年8月15日、幾多の尊い命を奪い去り、残された者に苦渋の人生を背負わせた第2次世界大戦が終結し、日本は敗戦国としての歴史を踏み出した。主権を国民に据え「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」という世界に誇るべき非戦の誓いを明文化した日本国憲法とともに復興をすめたが、戦後80年のいま、防衛費の2倍化を閣議決定し世界第3位の軍事大国にしようとしている。自衛隊は、1954年の発足より専守防衛を存在意義としているが、政府は近隣国の脅威をあり、先制攻撃こそ最大の防衛との理屈で敵基地攻撃能力を持つ兵器の配備をすめ、武器産業を輸出の中軸に据えるなど憲法に反する行為を続けている。費用捻出のために社会保障費は削減され続けており、その代償が貧困と格差、差別と排外主義が蔓延する現在の日本社会である。

いまロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ間の戦争が世界中に飛び火する可能性が高まっている。また、アメリカはイラン核施設への爆撃を自衛権の範疇だと主張しており、核抑止論はまったくの妄想であることも明らかになった。際限のない軍備増強の行く先は戦争である。しかし日本政府は日米安保条約のもとアメリカの世界侵略へ加担し、自衛隊と米軍の一体化やNATO加盟国軍との合同演習を拡大するなど、いまや日本全土が軍事演習場化しており、アジア諸国から軍事大国化を懸念する声も上がっている。

「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」日本医労連のスローガンは、戦場で負傷した兵士を再び前線へ送り出すという極めて非人道的な行為を強要された医療従事者たちの、命を守りたいという願いからしみ出た言葉である。戦争という残酷で理不尽な歴史を繰り返さないため、いま私たち医療・介護・福祉労働者には、平和の実現を求めるとりくみを現場から実践することが求められている。

平和の実現には、戦争のない状態を作ることと同時に、戦争につながる貧困と格差、差別と分断を減らし、無くす営みが不可欠である。地域医療や患者・利用者の権利を守ること、そして賃上げ・労働条件改善、職場からハラスメントや差別をなくし人権を守る実直な労働組合活動が、戦争を止める力となる。命と暮らしを支える私たちが平和を訴える声は、必ず社会に響く。足は現場に、目は世界に向けて、すべての組合員が憲法を守り戦争させない運動へ、さらなる一歩を踏み出すことを、戦後80年の節目に開催された今大会の名において、決議する。

2025年7月24日

日本医療労働組合連合会第75回定期大会

たことや、昨年行った九州ブロックアクト in 沖縄 平和学習を行ったほか、平和を訴える活動としてピースアクション コリレーの復活を検討していることを発言がありました。

組織拡大 共済推進、争議、青年・女性分野

組織拡大 共済推進、争議、青年・女性分野

やりきれぬ 夜勤10回 低賃金 おやぶん



2025年医療・介護にはたらく みんなの川柳最優秀作品発表

平和と民主主義、災害復興、原発ゼロ、国民共同

平和と民主主義、災害復興、原発ゼロ、国民共同

平和と民主主義、災害復興、原発ゼロ、国民共同

## 大会議長 お疲れさまでした



(左) 田中希依さん (全医労) (中) 梅本哲男さん (東海北陸・岐阜) (右) 池原裕子さん (中国・鳥取)

## 総括答弁



日本医労連 米沢哲書記長

賃上げについて多くの発言が出されました。山形からは、要求実現に結びつたかたは、方として産別一斉団交、産別統一ストライキを構えていくことを求めたかたは経験が出されました。全医労からは、賃上げにこだわりを作るため、オンライン学習会を毎週行い、組合員と意思統一を深めながらストライキに立ち上がる経験。福岡からは、13組合がストライキを実施し、そのうち2組合が初のストライキに決起し、組織が前進した経験が出されました。

青森からは25春闘における職場決議の取り組みに関わって、原則的なたたかいを進める必要性について発言がありました。25春闘では1000を超える事業所が決議をあげて意思統一を深めました。今後さらに産別統闘闘争の実践を強めながら、たたかいを進めていく必要があると述べました。

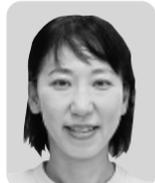
愛媛からは、世界の産別とともたたら26春闘し、年収800万円が当たり前になることを目指す必要があると述べました。

夜勤改善・大幅増員

# よろしくお願ひします

## 2025年度中央執行委員

●選出された25年度役員のみなさん(敬称略)

 中央副執行委員長 渡辺 勇仁 山形・現	 中央副執行委員長 吉田 岳彦 北海道・現	 中央副執行委員長 菅原 忠 全労災・現	 中央副執行委員長 花澤 直樹 全厚労・現	 中央執行委員長 佐々木 悦子 全医労・現				
 中央執行委員 大栗 陽 全厚労・現	 中央執行委員 松本 よし子 全医労・新	 書記次長 寺田 雄 東京・新	 書記次長 松田 加寿美 北海道・現	 書記次長 油石 博敬 北海道・現	 書記長 米沢 哲 東京・現	 中央副執行委員長 田中 直光 熊本・現	 中央副執行委員長 坂田 政春 京都・現	 中央副執行委員長 森田 進 東京・現
 中央執行委員 矢野 彩子 愛知・現	 中央執行委員 青山 光 東京・現	 中央執行委員 傳田 泉 長野・新	 中央執行委員 遠藤 麻由 宮城・現	 中央執行委員 小玉 高弘 宮城・現	 中央執行委員 上田 潤 山形・現	 中央執行委員 三浦 進 北海道・現	 中央執行委員 浅山 麻実 全労災・現	 中央執行委員 月又 智広 全日赤・現
 特別中央執行委員 黒澤 幸一 北海道・現	 中央執行委員 齋藤 由美子 書記局・現	 中央執行委員 桶谷 恵美 書記局・現	 中央執行委員 山崎 世理 書記局・現	 中央執行委員 櫻井 順一 書記局・現	 中央執行委員 保元 里美 福岡・現	 中央執行委員 井上 純 徳島・現	 中央執行委員 梶山 智昭 山口・現	 中央執行委員 前原 嘉人 大阪・現
 会計監査 小貫 駿 埼玉・新	 会計監査 奥井 明子 全厚労・現	 会計監査 鈴木 優 全医労・新	 特別中央執行委員 原 英彦 愛知・新	 特別中央執行委員 鎌倉 幸孝 長野・現	 特別中央執行委員 林 信悟 愛知・現	 特別中央執行委員 五十嵐 建一 書記局・現	 特別中央執行委員 寺園 通江 書記局・現	

## 第37期共済運営委員

監事	松崎 実和	池上 智子	山口 早苗	井樋 美香子	金子 竜太	煙崎 久美子	石堂 吉輝	新喜 倫生	三森 幹生	田村 巧	坂本 諭	浅山 麻実	吉岡 輝己	岡野 学	鈴木 優	鹿野 光裕	桶谷 恵美	米沢 哲	渡辺 勇仁	佐々木 悦子
役員	東京医労連書記次長	神奈川医労連執行委員	全日赤書記次長	沖縄県医労連書記長	高知県医労連書記長	広島県医労連書記長	奈良県医労連書記長	石川県医労連書記次長	山梨県医労連書記長	岩手医科大学教職員組合中央執行委員	北海道医労連書記長	全労災書記長	全日赤中央執行委員	全厚労書記次長	全医労中央執行委員	日本医労連書記	日本医労連中央執行委員	日本医労連書記長	日本医労連中央執行委員長	日本医労連中央執行委員長

## NNU・GNUからのメッセージ

親愛なる日本医労連の皆様へ

2025年7月9日  
全米看護師連盟 (NNU)  
世界看護師連合 (GNU)

世界の看護師と医療従事者は、世界的な感染症に苦しむ患者のケアを通じ、安全な職場、労働者の権利、地域社会の繁栄、そして健全な環境のための共通のたたかいに至るまで、共通の経験を有していることを知っています。私たちが直面する脅威は国境を越えるため、私たちの連帯にも境界はありません。世界看護師連合(GNU)の創設加盟組織である全米看護師連盟(NNU)の22万5千人の登録看護師は、日本医療労働組合連合会と揺るぎない団結を保っています。

皆さんは、経験豊富な看護師や医療従事者が働き続けられるための公正な賃金と安全な労働条件を求め、全国規模のストライキという驚くべき勇気を示しました。

医療と健康が最優先される社会を求めて立ち上がることは、決して容易なことではありません。しかし日本医労連の組合員の方々は、世界中の働く人々を守るために立ち上がりました。その決意と力強さに敬意を表します。

すべての働く人々のいのちと権利を守るための政策を推進していく中で、全米の看護師、そしてGNUを通して世界中の看護師が、常に皆さんと共にあることを忘れないでください。皆さんのたたかいは私たちのたたかいです。私たちはあらゆる場面で皆さんを支え、応援するためにここにいます。

2025年度  
顧問の委嘱(1名)  
三浦 宣子  
(退任時:中央副執行委員長)

2025年度  
選挙管理委員  
鄭 扇伊(全医労)  
榎田 ふみ(全厚労)  
谷口 考平(和歌山)  
中村 更(熊本)

退任役員  
書記次長  
内田 博之(山梨)

中央執行委員  
森川 息吹(全医労)  
永島 達哉(千葉)

会計監査  
岩谷 香寿美(全医労)  
藤田 省吾(埼玉)

お疲れさまでした